

日本銀行  
帯広事務所長

田原 謙一郎



日本銀行帯広事務所では、地元金融機関との間でお札の受け払いを行っている。昨年1年間で890億円を払い出し（お札の「発行」、265億円を受け入れた（お札の「還収」）。発行額が還収額より多くなっている。地元金融機関の窓口やATM（現金自動預払機）で引き出されたお札が、そのまま保有されている（いわゆるたんす預金）あるいは十勝の域外で使われたこと等が考えられる。

## かちまい 論壇

# 現金とキャッシュレス

全国的にもお札の発行高は増えている。お札と貨幣を合わせた現金流通高の規模は国の経済規模の2割以上に上り、この比率は国際的にみるととても高い。日本は現金志向の強い国と言われている。

日本で現金がよく使われる理由はいくつか考えられる。「カードなどのキャッシュレスに比べてお金を使い過ぎる心配が少ない」という話はよく聞く。盗

難が少ないとか、現金を落とすことも戻ってくる人が多いといった治安の良さも関係しているだろう。お札の偽造防止技術の水準が高く、偽札の流通が少ないなど、現金を安心して使えることも指摘できる。また、国際的にみると狭い国土に金融機関の店舗やATMが密集しており、それだけ現金の引き出しや入金容易だとも言える。

その一方で、自分の普段の生

活を振り返ってみると、店舗やネットショッピングでクレジットカードを使ったり、鉄道やバス

の店舗やATMが密集しており、それだけ現金の引き出しや入金容易だとも言える。その一方で、自分の普段の生活

活を振り返ってみると、店舗やネットショッピングでクレジットカードを使ったり、鉄道やバス

の店舗やATMが密集しており、それだけ現金の引き出しや入金容易だとも言える。その一方で、自分の普段の生活

活を振り返ってみると、店舗やネットショッピングでクレジットカードを使ったり、鉄道やバス

活を振り返ってみると、店舗やネットショッピングでクレジットカードを使ったり、鉄道やバス